

第1学年 国語科 指導者：馬場 美奈恵・野呂瀬 加代

1 スローガン 「国語の力を基礎的・発展的に身に付けよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・常用漢字を身に付けるためには、ワークやノートを用いて、繰り返し学習を行う。
- ・正しい文章を書き、言葉をつかう力を付けるためには、文法を学習し、感想文、鑑賞文、意見文など、様々な形態の作文を書く。
- ・古典学習を通し、日本の伝統的言語と文化を知るためには、古典の音読や暗唱を通して古来の日本の人々の生活や思いを読み取る。
- ・正しい文字の書き方を身に付けるために、毛筆、硬筆ともに、書道の実技に取り組む。
- ・重要な部分を聞き分ける力を養うためには、聞き取り問題に取り組み、メモを取るなど工夫をして聞く習慣を付ける。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・文学的文章の思考力を付けるためには、登場人物の心情やものの見方、考え方を読み取り、それについて自分の考えをもち、表現する習慣を付ける。
- ・説明的文章の思考力を付けるには、要旨や筆者の主張、根拠を読み取り、論じられている内容について理解し、表にまとめるなど整理する。
- ・魅力的で伝わる文章を書く力を付けるためには、様々な詩歌や文章を読み、語彙を増やし、表現技法を用いて書く練習をする。
- ・相手に伝わる発表をするには、問いかけなど工夫をしてスピーチやプレゼンテーションをする。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・国語の力を付けるためには、1時間1時間の授業を大切にすること。
- ・家庭学習の習慣を付けるためには、定期的なワーク提出やプリントなどの課題に取り組むこと。
- ・授業への集中力を高めるために、ノートを見やすく工夫して丁寧に書くこと。
- ・相互学習で視野を広げるためには、話し合いや意見交流の時間に互いの意見を聞き、自分の意見との共通点、相違点を見付けること。

3 力を伸ばすためのポイント

授業内で話をしたことなどをノートのメモ欄に記入するようにすると、話をよく聞く習慣を付けることができ、授業への集中度が変わります。大事なことを聞き逃さないようにしましょう。

予習・復習に国語のワークや漢字ワークなどを用い、家庭学習の習慣を付けるとそれぞれが学習した内容が定着します。授業だけではなく、家庭学習も大切にしましょう。

国語は考えることが大事な教科です。問われたことはとにかく考え、自分なりの意見をもつようにしましょう。そうすることで、さらに自分の力を伸ばしていくことができるようになるはずです。

4 授業の進め方

週4時間程度の授業を行います。文学的文章や説明的文章、詩歌などに取り組みながら、読解力や思考力を高めていきます。まず説明を聞き、次に作業や自分なりの考えを深めていくことで、理解を深めます。最後に学習事項をまとめて、内容を整理します。

5 持ち物について

教科書、漢字のワーク、国語のワーク、資料集、ノート、タブレット、日常に役立つ文法、書写セット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・定期考査、小テスト ・ワークシート、提出物、書写作品 ・授業観察、発表等
思考・判断・表現	・定期考査、小テスト ・ワークシート、提出物、作文 ・授業観察、発表、ノート、スピーチ等
主体的に学習に取り組む態度	・授業観察 ・ワークシート ・提出物（ノート、ワーク、作文等）

7 漢字検定について

第1回 令和8年 7月10日(金)

第2回 令和8年 10月18日(日)

第1学年 社会科 指導者：伊藤 郷

1 スローガン 「社会的事象と自分との『つながり』を知ろう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・標準の力を付けるためには、まず、教科書の太文字やワークに出題された言葉をマークして、覚えましょう。覚えるためには、繰り返しやる必要があります。次に、授業の中で扱われる資料を読み取って分かることを書きましょう。
- ・発展的な力を付けるためには、覚えた社会の言葉を使って出来事の説明や理由が書けるように練習しましょう。また、レポートなどで図や表、地図などの資料を入れて、自分からも資料を活用していきましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・標準の力を付けるためには、自分の考えや意見、出来事が起こった理由などについて、短くてもよいので書く習慣を付けましょう。
- ・発展的な力を付けるためには、どうしてそのような結果になったのか、読んだ人が納得できるように、社会的事象の背景や理由、根拠を具体的に書きましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・標準の力を付けるためには、1時間1時間の授業を大切にしましょう。
- ・発展的な力を付けるためには、授業中、黒板に書いたことを写すだけではなく、積極的に授業を受けましょう。例えば、発言をしたり、黒板に先生が書いたこと以外でも、必要だと感じたことをノートに書いたりしましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

地理は、日本や世界各地の人々の生活に興味をもつことが大切です。その場所に住む人々の生活を扱うのが地理という科目です。今はテレビやインターネットで、世界各地のことが紹介されています。それらに触れてみるのもよいでしょう。

歴史は、出来事が起こった背景を考えることが大切です。重要な歴史上の出来事には、その出来事が重要になった理由が必ずあります。その理由を考えて、自分で説明できるように理解していきます。

今は漫画やテレビなどで、歴史上の人物や出来事を扱ったものが多くあります。それらに触れてみると、より教科書がいきいきしたものを感じられ、興味をもてるようになると思います。

4 授業の進め方

週3時間の授業を行います。前期は歴史を、後期は地理を学習する予定です。授業では、まずワークシートを用いて知識の確認を行います。次に説明を聞き、作業に取り組んで理解を深めます。最後に学習事項を文章でまとめて、内容を整理します。

5 持ち物について

教科書、地図帳、ワーク、プリントを綴じるファイル(学校で用意)、タブレット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・単元テスト・ワークシート・提出物・学習事項の発表活動
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・単元テスト・ワークシート・提出物・学習事項の発表活動
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・単元テスト・ワークシート・提出物・学習事項の発表活動

第1学年 数学科 指導者：伊野彰悟・和田耕一

1 スローガン 「日々の積み重ねが力になる！」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

基礎的な力を付けるためには

- ・板書事項や大切だと思ふ事項を丁寧にノートにとろう。
- ・例題の解き方をよく理解しよう。
- ・必要な途中式をきちんと書こう。
- ・問題集の基本問題を何問も解いて、解き方に慣れよう。解いたら必ず答え合わせをし、間違えた問題は、解答を見ながらやり直すか、先生や友達に質問しよう。

標準的な力を付けるためには

- ・必要な途中式を書き、素早く見直しができるようにしよう。
- ・問題を解く際は、時間を意識してみよう。

観点〈思考・判断・表現〉

基礎的な力を付けるためには

- ・自分と違う解法が紹介されたらきちんとノートにとり、その解き方をなぞって理解しよう。

標準的な力を付けるためには

- ・解いた問題に別の解法がないか考えてみよう。自分の考えを、数学的な表現を用いてまとめてみよう。
- ・他の領域や教科との関連について調べてみよう。分野によっては理科や社会等の教科との関連で興味深い事柄が発見できる。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

力を付けるためには

- ・分からないことを質問するなど、授業に積極的に参加しよう。
- ・忘れ物をしないようにし、今まで以上に提出物の提出期限をしっかりと守ろう。
- ・気付いたことや大切だと思ふことを、ノートにメモすることを習慣にしよう。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・次の授業までに、前回の学習内容を復習することを習慣にする。
- ・分からないところは、そのままにしないで質問する。

4 授業の進め方

各クラスを2分割（基礎・標準）し、習熟度別少人数による授業を行う。

〔担当教員〕

	標準	発展
1章	和田	伊野
2・3章	伊野	和田
4章	和田	伊野
5・6章	伊野	和田
7章	和田	伊野

5 持ち物について

教科書、ノート、ファイル、タブレット、問題集「よくわかる数学の学習」

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・ワークシート
思考・判断・表現	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	・定期考査 ・問題集 ・小テスト ・ワークシート

7 数学検定について

第1回 令和8年 7月25日(土) 9:00～

第2回 令和8年10月10日(土) 9:00～

第1学年 理科 指導者：野上 大地

1 スローガン 「自ら疑問を生み出し、仮説を立て、検証して科学事象を理解しよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

標準的な力を付けるためには

- ・授業の内容をノートや授業プリントに、見やすく、分かりやすく書きましょう。
- ・授業で習ったことを、教科書、ノート、授業プリント、レポート等で見直しましょう。
- ・問題集やプリント等で分からないところは、自分で調べて答えを出してから、答え合わせをしましょう。
- ・分からないところがあったら、先生にすぐ聞きましょう。
- ・観察・実験の中で器具の基本操作が身に付くように自ら取り組み、教科書やレポートで復習しましょう。
- ・観察・実験の結果を記録し、グラフにする方法を身に付けましょう。
- ・様々な資料を活用し、観察・実験の結果を整理しましょう。

発展的な力を付けるためには

- ・必要な途中式を書き、素早く見直しができるようにしましょう。
- ・設問に惑わされず、法則に立ち戻って考えましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

標準的な力を付けるためには

- ・様々な事物や現象に、疑問を考えよう。
- ・抱いた疑問を解決するための仮説を自ら立ててみよう。
- ・観察・実験の目的を意識して行い、結果には自分の考えをまとめましょう。

発展的な力を付けるためには

- ・自ら立てた仮説を確認する方法と科学的な根拠を考えましょう。
- ・観察・実験の結果について、先生や友達に自分の考えを説明できるようにしましょう。
- ・観察・実験の結果をもとに、事象の原理や条件を変えた実験の結果の予測をできるようにしましょう。
- ・他の人の意見を聞き、その意見について他の人と話し合ってみましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

標準的な力を付けるためには

- ・ノートや授業プリントを記入し、レポートを書き、忘れ物をせず、提出物は期日を守って提出しましょう。
- ・授業で先生の話をしっかり聞き、疑問に思ったことは積極的に質問しましょう。

発展的な力を付けるためには

- ・科学的な根拠に基づいて考えた自分の意見を発表しましょう。
- ・先生の話の中で大切だと思ったことは、ノートや授業プリントに書き留めましょう。
- ・観察・実験では、班の中心になって活動をリードしましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

理科事象は、常に起こっています。その現象には法則があり、その法則には原理があります。原理を理解し、法則を使いこなせるようにしましょう。法則の原理の理解度を図るために定期考査があります。定期考査では、いろいろな条件を加えたり質問の仕方を変えたりしますが、原理に立ち戻って考えることで、条件の意味や問題の意図が見えてきます。授業内でも実験や問題演習をするので、訓練していきましょう。

4 授業の進め方

- ・理科では、「物理」「化学」「生物」「地学」の四つの分野を学習します。
 - ・単級（クラス全体）で授業を行います。
 - ・理科室での実験を行います。危険な薬品や器具を使うこともあるため、先生の話をしっかり聞き、安全に実験を行っていきましょう。
- ※理科室でのルールについては後日説明します。

5 持ち物について

教科書、ノート、理科の完全学習、色ペン（最低でも赤と青の2色）、定規、のり

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・実験手順や器具の操作（行動観察） ・提出物（レポート） ・小テスト ・定期考査
思考・判断・表現	・定期考査 ・提出物（レポート）主に考察 ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	・授業に取り組む姿勢・態度 ・提出物（授業プリント、問題集、レポート、プリント） ・定期考査

第1学年 音楽科 指導者：田中広輝

1 スローガン 「基礎を身に付け、音楽で表現しよう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

合唱・器楽

- ・歌詞の内容や(旋律や)曲想の表現を工夫して歌う(演奏する)。
- ・曲種に応じた発声(奏法)を心がける。
- ・声部の役割や全体の響きを生かし、合わせて歌う(演奏する)。

創作

- ・言葉や音階などの特徴を感じ取り表現を工夫して簡単な旋律をつくる能力、リズムの特徴を感じ取り、工夫しながら音楽をつくる。

観点〈思考・判断・表現〉

合唱・器楽

- ・歌詞の内容や曲想を感じ取る。
- ・声部の役割や全体の響きを感じ取り、意図をもって表現する。

創作

- ・言葉やリズムなどの特徴を感じ取り表現を工夫しようとする。

鑑賞

- ・音楽を形づくっている要素や構造などを、言葉で表現する。
- ・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術との関連を理解して鑑賞する。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業のルールを守る。(静と動のメリハリをつける)
- ・授業目標の達成度を高める。(音楽を楽しむ)
- ・提出物等の完成度(期日を守る、内容の丁寧さ)

3 力を伸ばすためのポイント

- ・音楽の良さを味わって聴く。
- ・授業のルールを守り、目標を達成するために前向きに挑戦する。

4 授業の進め方

- ・第1音楽室（出席番号、パート別で座席指定）

歌唱・鑑賞・器楽

5 持ち物について

教科書（中学生の音楽1、器楽）、ファイル、コーラスフェスティバル、ミュージックノート

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・小テスト・実技テスト・伴奏指揮の取組・提出物（ノート：楽譜等、プリント）
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・実技テスト・提出物（ノート：鑑賞文等、プリント）・練習過程
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・小テスト・伴奏指揮の取組・提出物（ノート、プリント、宿題等）・授業態度と練習過程

第1学年 美術科 指導者：山崎 剛典

1 スローガン 「表現する楽しさを味わおう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

制作

- ・材料や道具の性質を生かし、計画的に制作を進めましょう。
- ・学んだ知識を生かし、制作の意図やコンセプトをアイデアスケッチにまとめましょう。
- ・本やタブレット等の資料を活用して制作に取り入れましょう。

鑑賞

- ・美術作品の特徴や、その背景となる文化・歴史、他の芸術との関連を理解しましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

制作

- ・絵や文章で具体的にアイデアスケッチをまとめましょう。
- ・課題に合わせて、表現技法や画材を工夫しましょう。
- ・課題に合わせて自分の作品の「主題（テーマ）」を設定し、表現しましょう。

鑑賞

- ・美術作品の美しさを感じ取り、自分の気持ちや考えを言葉で表現しましょう。
- ・自分の考えを発表し合ったり、話し合ったりして学びを深めましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業のルールを守りましょう。
- ・具体的な目標を立て、達成に向けて取り組みましょう。
- ・自分の作品に最後まで粘り強く向き合ひましょう。
- ・提出物の完成度や期日を意識して取り組みましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

授業を通して、自分で「答え」を探し「答え」を見つけ出すのが美術です。1年生の美術では、まず授業に慣れ、制作や鑑賞を通して表現することを楽しんでください。

また、定期考査では主に鑑賞の授業で学習した内容を選択問題、記述問題出題で出題します。時には実技問題も出題されます。授業で学んだことを復習し、テストに臨んでください。

4 授業の進め方

導入説明・制作・鑑賞会をします。制作は、4週～6週にかけて一つの作品を作りますが、ものによっては、もっと短時間のも長時間のものもあります。制作期間中は、毎回「どこまで制作を進めるか」の計画を自分で立てます。


5 持ち物について

教科書、資料集、タブレット、クロッキー帳、ポスターカラー、鉛筆

6 評価について


観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・ワークシート ・授業の様子 ・作品 ・定期考査
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・ワークシート ・定期考査 ・作品 ・授業の様子
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物 ・制作レポート ・授業の様子 ・作品 ・定期考査

① 知識・技能

「知って、できているか」  使い方や描き方を理解し、実際にできているか

例 ・筆や絵の具を正しく使っているか、線の引き方を工夫して授業で習ったことを作品に生かしているか


② 思考・判断・表現

「自分で考えて、表しているか」  アイデアを考え、どう作品で表しているか

例 ・「日本っぽくするには？」 ・自分なりに考えて計画しているか

ポイント「なぜそうしたのか」を説明できると良い

③ 主体的に学習に取り組む態度

「前向きにがんばっているか」  やる気をもって、授業に取り組んでいるか

例 ・授業中、集中して制作して仕上げようとしている ・友だちの作品や説明をしっかりと見て聞いている

美術のテストはどの評価？

① 知識・技能（知識）

・美術の時代や名前 作品・作者特徴を知っているか → 「知っているか・覚えているか」知識・技能で評価

美術は

- ①できること
 - ②考えたこと
 - ③がんばる気持ち
- 3つで評価。

第1学年 保健体育科 指導者：大澤 香・齊藤 泰弘

1 スローガン 「生涯にわたって、スポーツに親しみ、心身ともに健康で豊かな生活を送る」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・基礎的な知識（健康について、ルール、技能の名称、体の動かし方等）、技能を身に付ける。
- ・運動の特性、練習方法や健康について科学的に理解する。
- ・何度も練習をして、基本的な技能を習得する。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・授業で身に付けた知識や技能を活用して、自己分析、チーム分析をして何が必要か考える。
- ・自己分析やチーム分析したことを仲間に伝え、共に課題解決をする。
- ・自己の課題を探究し、課題解決のために必要な練習方法等を工夫する。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・自らの意思で学ぼうとする。特に、あきらめずに粘り強く努力する。上手くいかないときこそ、どうしたらできるようになるか試行錯誤する。
- ・分からないことや新しい知識を自ら探究し、繰り返し実践する。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・苦手な種目であっても挑戦する。ただ実践するのではなく、自己の課題を解決するために必要な技能、練習方法を考える習慣を身に付ける。
- ・仲間を大切に！協力して準備・片付けをしたり、アドバイスをしたり、褒めたり、応援したり等。一人では難しいことも仲間とならできることがある。
- ・上手な人だけが活躍するのではなく、得意な人も不得意な人も全員が楽しいと思える授業にする。そのために何をしたら良いか常に考えて行動すること。

4 授業の進め方

- ・基本的にクラス単位で授業を行う。
- ・何よりも時間を大切にすること。50分間をいかに無駄にしないかが大切。始業チャイムが鳴り終わるまでに活動場所で整列が完了し、体育係の指示で、体操が始められるとさらに良い。
- ・先生の話は、「耳で聴く！」「目で聴く！」「体で聴く！」先生からの指示があるときには、すぐに話が聞ける姿勢をつくる。保健の授業では、板書だけでなく、先生が話していることもメモをして、さらに知識を増やす。
- ・行動は素早く、機敏に。集合がかかったら走って集合する。
- ・毎時間授業で振り返り（自己課題）を提出します。授業中、ただ運動に取り組むだけではなく、自己・グループの課題、疑問など考えながら運動に取り組むことが実技の向上に向けての近道です。

5 持ち物について

【体育分野】 学校指定の体育着（サブTシャツも可）、運動靴、タブレット、実技教科書、筆記用具

※ ジャージの着用については気温に応じて指示します。

※ 広尾Tシャツやインナーの着用は認めない。

※ 髪の毛が長い場合は、髪を結ぶ用のゴムを持参する。

※ アクセサリー類は一切身に付けない。時計やヘアゴムも外す。

【保健分野】 保健体育教科書、保体資料ノート、筆記用具、タブレット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	・定期考査 ・学習カード ・実技テスト・記録 ・授業観察
思考・判断・表現	・定期考査 ・学習カード ・動画、画像課題提出時の振り返り ・保健のプリント ・授業観察
主体的に学習に取り組む態度	・学習カード ・提出物（保体資料ノート、課題など） ・授業観察

7 実技見学時の連絡について

- ・体調不良などで授業を見学する場合、見学理由、期間（長い期間見学をする場合）などを保護者の方が記入し、授業開始時に担当教員に提出をお願いします。原則毎回提出をお願いします。見学の際は、体育着に着替えて見学することを原則とします。

第1学年 技術科 指導者：磯部 正則

1 スローガン 「心に残る作品を作ろう」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・授業中しっかり話を聞いて理解し、必要なことはノートにまとめ、覚えましょう。
- ・作業内容を理解し、自ら進んで作業に取り組みましょう。
- ・作業は正確に、また丁寧に取り組みましょう。
- ・作品は必ず提出日までに完成させましょう。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・課題の内容をよく考え理解し、丁寧に作品を作りましょう。
- ・課題に対して疑問をもち、見方、考え方を働かせながら真剣に取り組みましょう。
- ・ノートやレポートに、作業等において理解したことや工夫したことなどを記述しましょう。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業中は意欲をもって真剣に取り組みましょう。
- ・作品は必ず提出日までに完成させましょう。
- ・進んで作業に取り組みましょう。
- ・ノートには、板書したことだけでなく、作業等において気が付いたことや学んだこと、理解したことなど、必要と感じたことなどをまとめておきましょう。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・いつも技術の仕組みや原理などに興味をもちましょう。
- ・日頃からいろいろな作品を見て、どう組み立てているのか考えるようにしよう。またその立体を描いてみよう。

4 授業の進め方

- ・1年生は週1時間の授業ですので、授業を真剣に取り組み、忘れ物等ないようにしましょう。
- ・授業ごとにその日の作業内容と、1, 2週間先までの作業の流れを説明し、作業に取り組みませます。
- ・安全に配慮し、作業等に取り組みませます。

5 持ち物について

教科書、A4サイズのノート、のり（プリントをノートに貼るため。）、油性マジック（材料、入れ物に名前等を記入するため。）

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・実技テスト・レポート・製作過程・授業の様子・製作品・ワークシート（提出物）
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・レポート・製作過程・授業の様子・製作品・ワークシート（提出物）
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・製作過程・授業の様子、授業への取り組み・製作品・ワークシート（提出物）・レポート

第1学年 家庭科 指導者：升田 祐子

1 スローガン 「生活者としての自覚をもち、適切な意思決定ができるようになるう！」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・授業の内容は、ノートやプリントに分かりやすく書く。
- ・教科書の太字やプリントに登場した言葉をマークする。
- ・作業のポイントをしっかり頭に入れて、実習に取り組む。
- ・材料や道具を活かし、計画を立てて製作をすすめる。
- ・自分の言葉で説明したり、理由を書いたりする。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・想像力を働かせて、授業の内容と生活を関連付ける。
- ・生活に関わる事物に疑問をもつ。
- ・「なぜそうなるか」自分の考えをまとめて友人や先生に説明する。
- ・他の領域や教科との関連について調べる。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・授業規律を守る。
- ・提出期限を守る。
- ・自分や友人を傷付けぬように、安全に留意する。
- ・準備や片付けなど、分担した役割に積極的に取り組む。
- ・板書の内容と、授業中の話の中で大切だと思ったことは書き留める。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・授業で強調したこと（何度も説明しとこと、大きな声で説明したこと、色のチョークを使って板書したことなど）は、もらすことなくメモをするか色ペンで印を付ける。
- ・10分間でよいので、その日のうちに復習する。
- ・実習は慎重かつ真剣に取り組む。
- ・作品の提出期限を守れるように最大の努力をする。
- ・プリントやノートは予告なく回収しても自信をもって提出できるようにまとめる。

4 授業の進め方

- ・教科書・ノートを用いて進める。
- ・実習は、道具の使い方や基礎技法、ポイントを確認してから始める。

5 持ち物について

教科書、ノート、その他指示した物

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・作品・プリント・ノート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・定期考査・作品・授業の取組・ノート・プリント
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・プリント・ノート・授業の取組・作品

第1学年 英語科 指導者：高木 誠・麻生 茉里

1 スローガン

「英語をたくさん聞いて、話して、読んで、書いて、自分の考えや思いを表現できるようになろう！」

2 学習の方法

観点〈知識・技能〉

- ・学習した単語や連語を覚える。文のしくみや語順を理解する。
- ・ワークやプリントの問題を繰り返し行う。
- ・事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や分を用いて、話したり書いたり、伝え合うようにする。
- ・単語テスト等にしっかり取り組み、基礎学力を身に付ける。
- ・教科書の本文を、意味を考えながら何度も音読する。
- ・授業で触れた国や言語・文化について考え、内容を理解し、知識を深める。

観点〈思考・判断・表現〉

- ・基本文（Key Sentence）を覚えて言えるようにし、表現できるようにする。
- ・学習した新文型等を用いて、自分の気持ちや考えを話したり、書いたりできるようにする。
- ・発表活動に意欲的に取り組む。
- ・教科書やそれ以外の英文を聞いたり、読んだりして、大まかな内容をつかめるようにする。
- ・知らない単語があっても、その意味を推測しながら、読んだり書いたりする。
- ・ALT が話す英文を集中して聞き、理解できるようにする。
- ・繰り返し英文を聞くことで、リスニング問題に慣れる。

観点〈主体的に学習に取り組む態度〉

- ・何でも意欲的に学ぼうとする前向きな気持ちをもつ。
- ・授業に集中し、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- ・発表活動に積極的に取り組む。
- ・発音や音読等は、声に出して練習する。
- ・家庭学習をしっかり行い、提出物は期限を守って提出する。

3 力を伸ばすためのポイント

- ・本文の音読はとても大切な学習方法です。しっかり発音しながら、音読しよう。
- ・授業中は友達の発言をたくさん聞き、英語をたくさん話そう。
- ・宿題は必ずその日のうちに取り組もう。学校で習ったことの復習をして、新出文型や単語を確実に覚えよう。
- ・デジタル教科書や ELSA を用いて、新出単語や本文の音声を何度も聞いて音読したり、聞いた英文を読んだりすることに慣れよう。
- ・教科書や問題集の英文を読み、英文を読むことに慣れよう。
- ・発表等にはしっかり準備と練習をして臨もう。

4 授業の進め方

- ・ 1 クラスを二つに分け、少人数による授業を行います。

Aグループ：1年1組教室/1年2組教室 Bグループ：第1英語学習室

5 持ち物について

教科書、ワーク、ノート、BINGO、ファイル（ピンク）、タブレット

6 評価について

観 点	評価の対象となるもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 定期考査・ 小テスト（単語テスト、単元テスト等）・ パフォーマンステスト・ スピーキングテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・ 定期考査・ 小テスト（単語テスト、単元テスト等）・ パフォーマンステスト・ スピーキングテスト
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none">・ 授業への取り組み態度・ 提出物（ワーク、ノート、プリント等）・ パフォーマンステスト・ スピーキングテスト

7 英語検定について

第1回 令和8年 5月22日(金)

第2回 令和8年 10月2日(金)